

# 海道 ノブチカ 博士 年譜・著作目録

## 〈年 譜〉

1948（昭和23）年8月22日 福島市に生まれる

### [学歴]

1967（昭和42）年3月	兵庫県立神戸高等学校卒業
1967（昭和42）年4月	関西学院大学商学部入学
1971（昭和46）年3月	同学部卒業
1971（昭和46）年4月	神戸大学大学院経営学研究科修士課程入学
1973（昭和48）年3月	同課程修了
1973（昭和48）年4月	神戸大学大学院経営学研究科博士課程入学
1974（昭和49）年3月	同課程中退
1991（平成3）年6月	商学博士（関西学院大学）

### [職歴]

1974（昭和49）年4月	小樽商科大学短期大学部講師
1977（昭和52）年10月	同大学助教授
1978（昭和53）年3月	同大学退職
1978（昭和53）年4月	桃山学院大学経営学部助教授
1987（昭和62）年4月	同大学教授
1989（平成元）年3月	同大学退職
1989（平成元）年4月	関西学院大学商学部教授

### [関西学院大学での役職]

関西学院大学産業研究所長 2004年4月～2006年3月

関西学院大学商学部長 2012年4月～2014年3月

[所属学会等での役職]

経営学史学会副理事長 2005年5月～2008年5月

日本比較経営学会理事 2006年5月～2011年5月

日本経営学会常任理事 2010年9月～2013年9月

日本経営学会理事長 2013年9月～2016年9月

IFSAM 2014経営学会国際 2011年11月～2014年9月

連合東京大会実行委員会

副委員長

IFSAM 経営学会国際連合 2013年9月～2016年9月

評議会評議員・日本経営学

会代表

経営関連学会協議会評議員 2013年9月～2016年9月

経営関連学会協議会理事 2015年3月～現在に至る

第1期EU インスティテュー 2005年4月～2008年9月

ト関西副代表

第2期EU インスティテュー 2009年4月～2010年6月

ト関西副代表

## 〈著作目録〉

## — 著 書 —

『西ドイツ経営学の展開』	千倉書房	1988年3月
『現代ドイツ経営学』	森山書店	2001年3月
『ドイツの企業体制—ドイツのコルポレート・ガバナンス—』	森山書店	2005年9月
『ドイツのコルポレート・ガバナンス』	中央経済社	2013年3月

## — 編 著 —

『EU 拡大で変わる市場と企業』	日本評論社	2008年3月
『EU 統合の深化—市場と企業の日本・EU 比較—』	日本評論社	2011年3月
『グーテンベルク』（経営学史叢書XII）	文眞堂	2013年5月

## — 共 編 著 —

吉田和夫、海道ノブチカ編著『ドイツ経営学の進展』	千倉書房	1992年3月
吉田和夫、海道ノブチカ編著『現代経営学と経営財務』	税務経理協会	1993年5月
海道ノブチカ、深山明編著『ドイツ経営学の基調』	中央経済社	1994年6月
万仲脩一、海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』	税務経理協会	1999年4月
大橋昭一、深山明、海道ノブチカ編著『日本とドイツの経営』	税務経理協会	1999年8月
深山明、海道ノブチカ編著『経営学の歴史』	中央経済社	2001年4月
深山明、海道ノブチカ編著『経営学の基礎』	同文館出版	2003年1月
片岡信之、海道ノブチカ編著『現代企業の新地平』	千倉書房	2008年8月
海道ノブチカ、風間信隆編著『コルポレート・ガバナンスと経営学—グローバル化下の変化と多様性—』	ミネルヴァ書房	2009年4月
深山明、海道ノブチカ編著『基本経営学』	同文館出版	2010年2月
久保広正、海道ノブチカ編著『EU 経済の進展と企業・経営』	勁草書房	2013年2月

## — 翻 訳 書 —

ラルフ・ボードー シュミット著 吉田和夫監修、 海道ノブチカ訳『企業経済学』第1巻 基礎編	千倉書房	1974年5月
ラルフ・ボードー シュミット著 吉田和夫監修、 海道ノブチカ訳『企業経済学』第2巻 目標達成 編	千倉書房	1978年6月
ラルフ・ボードー シュミット著 吉田和夫監修、 海道ノブチカ訳『企業経済学』第3巻 成果使用 編	千倉書房	1986年8月
ヴォルフガング・ヴェーバー著 深山明、海道ノ ブチカ監訳『経営経済学入門』	中央経済社	1996年2月

## — 分担執筆書 —

川崎文治、橋博、吉田和夫編著『現代資本主義と 経営学説』 第8章「西ドイツ経済体制の展開と経営学説」	ミネルヴァ書房	1978年2月
市原季一先生追悼記念事業会編『ドイツ経営学研 究』 「経営経済学と労働者利害」	森山書店	1981年9月
吉田和夫、大橋昭一編著『ドイツ経営学総論』 第8章「経営意思決定」	中央経済社	1982年5月
伊藤淳巳、植村省三編著『経営学基礎講義』 第1章「経営学の対象と方法」 第2章「アメリカ経営学とドイツ経営学」	中央経済社	1984年2月
海道進、大橋昭一編著『ドイツ経営学の展開』 第3章「労働志向的個別経済学」	千倉書房	1986年3月
市原ゼミナール研究会編『経営と人間』 「決定志向的経営経済学と労働者利害」	森山書店	1987年12月
吉田和夫、大橋昭一編著『基本経営学総論』 第11章「経営意思決定」	中央経済社	1988年3月
海道進、大橋昭一編著『現代の個別資本理論』 第11章「個別資本理論と西独批判的経営学」	千倉書房	1990年5月
戦後日本経営研究会編著『戦後日本の企業経営 —「民主化」・「合理化」から「情報化」・「国際化」 へ—』 第11章「企業経営の日独比較」	文眞堂	1991年3月
大橋昭一編著『現代のドイツ経営学』 第14章「ドイツの批判的経営学」	税務経理協会	1991年5月

- |   |         |         |
|---|---------|---------|
| 吉田和夫、海道ノブチカ編著『ドイツ経営学の進展』(前掲)<br>第2章「ドイツ企業体制論の生成」                                | 千倉書房    | 1992年3月 |
| 吉田和夫、海道ノブチカ編著『現代経営学と経営財務』(前掲)<br>第3章「現代ドイツの企業体制論と監査役会」                          | 税務経理協会  | 1993年5月 |
| 片岡信之編著『要説経営学』<br>第25章「経営学の歴史(ドイツ)」  | 文眞堂     | 1994年5月 |
| 海道ノブチカ、深山明編著『ドイツ経営学の基調』(前掲)<br>第3章「第2次大戦後のドイツ経営学」                               | 中央経済社   | 1994年6月 |
| 吉田和夫、大橋昭一編著『現代基本経営学総論』<br>第11章「経営意思決定」  | 中央経済社   | 1995年7月 |
| 海道進、吉田和夫、大橋昭一編著『現代ドイツ経営経済学』<br>第1章「第二次世界大戦後のドイツ経営経済学の展開」                        | 税務経理協会  | 1997年4月 |
| 経営学史学会編『経営学研究のフロンティア』<br>[第5輯]<br>第10章「現代企業体制論の展開—R.-B. シュミットとシュミーレヴィッチを中心として—」 | 文眞堂     | 1998年5月 |
| 小西唯雄編著『産業と企業の経済学』<br>第9章「ドイツのコーポレート・ガバナンス」                                      | 御茶の水書房  | 1998年6月 |
| 万仲脩一、海道ノブチカ編著『利害関係の経営学—生活と企業—』(前掲)<br>第3章「出資者と企業」<br>第4章「経営者と企業」<br>第6章「消費者と企業」 | 税務経理協会  | 1999年4月 |
| 海道進、森川譯雄編著『労使関係の経営学—日米欧労使関係の歴史と現状—』<br>第9章「ドイツにおける労使関係と経営経済学」                   | 税務経理協会  | 1999年4月 |
| 大橋昭一、深山明、海道ノブチカ編著『日本とドイツの経営』(前掲)<br>第2章「コーポレート・ガバナンスの日独比較」                      | 税務経理協会  | 1999年8月 |
| 三島倫八、阿辻茂夫編著『現代組織の諸相』<br>第6章「企業と経営参加」  | 文眞堂     | 2000年9月 |
| 深山明、海道ノブチカ編著『経営学の歴史』(前掲)<br>第5章「管理論の歴史」   | 中央経済社   | 2001年4月 |
| 濱本泰編『現代経営学の基本問題』<br>第22章「ドイツの企業体制」  | ミネルヴァ書房 | 2002年5月 |

- |  |         |          |
|--|---------|----------|
| 太田進一編著『企業と政策－理論と実践のパラダイム転換－』<br>第2章「ドイツ経営学と企業政策」   | ミネルヴァ書房 | 2003年1月  |
| 深山明、海道ノブチカ編著『経営学の基礎』（前掲）<br>第1章「経営学の方法と歴史」<br>第16章「環境問題と企業経営」                              | 同文館出版   | 2003年1月  |
| 深山明編著『EUの経済と企業』<br>第6章「EU法人としてのヨーロッパ会社（SE）」  | 御茶の水書房  | 2004年7月  |
| 日本比較経営学会編『会社と社会－比較経営学のすすめ－』<br>第4章「EU社会の変貌と企業」   | 文理閣     | 2006年12月 |
| 海道ノブチカ編著『EU拡大で変わる市場と企業』（前掲）<br>第5章「EUにおけるコーポレート・ガバナンス改革」                                   | 日本評論社   | 2008年3月  |
| 海道ノブチカ、風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学－グローバル化・グローバリゼーション下の変化と多様性－』（前掲）<br>序章「『企業と社会』とコーポレート・ガバナンス」 | ミネルヴァ書房 | 2009年4月  |
| 深山明、海道ノブチカ編著『基本経営学』（前掲）<br>第1章「経営学の方法と歴史」  | 同文館出版   | 2010年2月  |
| 片岡信之、齊藤毅憲、佐々木恒男、高橋由明、渡辺峻編著『アドバンスト経営学』<br>第1章第2部第5節「経営経済学の生成と発展」                            | 中央経済社   | 2010年5月  |
| 海道ノブチカ編著『EU統合の深化－市場と企業の本・EU比較－』（前掲）<br>第9章「EUと日本におけるコーポレート・ガバナンス改革」                        | 日本評論社   | 2011年3月  |
| 経営学史学会編『危機の時代の経営と経営学』（第18輯）<br>第2章「両大戦間の危機とドイツ経営学」   | 文眞堂     | 2011年5月  |
| 久保広正、海道ノブチカ編著『EU経済の進展と企業・経営』（前掲）<br>第6章「ヨーロッパ型企業モデルとコーポレート・ガバナンス」                          | 勁草書房    | 2013年2月  |
| 海道ノブチカ編著『ゲーテンベルク』（経営学史叢書Ⅺ）（前掲）<br>第9章「ゲーテンベルク以降のドイツ経営学の動向」                                 | 文眞堂     | 2013年5月  |

- 小笠原英司編著『日本の経営学説Ⅰ』（経営学史叢書ⅩⅢ）（前掲） 文眞堂 2013年5月  
第2章「池内信行－経営経済学の発生論的究明－」
- 市川顕編著『EUの社会経済と産業』 関西学院大学出版会 2015年3月  
第6講「EUの企業形態」  
第7講「EUのコルポレート・ガバナンス」

## — 論 文 —

- 「R.-B. シュミットの企業経済学」 『會計』（森山書店）第105巻第2号 1974年2月
- 「R.-B. シュミットの成果概念」 『商學討究』（小樽商科大学）第26巻第1号 1975年7月
- 「企業の目標達成－R.-B. シュミット『企業経済学』第2巻を中心として－」 『商學討究』第26巻第4号 1976年3月
- 「企業と経営の概念－コジオールとR.-B. シュミットを中心として－」 『商學討究』第28巻第1号 1977年7月
- 「コジオールの経営経済学」 『経済経営論集』（桃山学院大学）第20巻第2号 1978年9月
- 「企業の成果使用－R.-B. シュミット『企業経済学』第3巻を中心として－」 『経済経営論集』第21巻第2・3号 1979年12月
- 「シュミット企業経済学の体系」 日本経営学会編『現代経営学の基本問題』〔経営学論集第50集〕千倉書房 1980年9月
- 「シュミーレヴィッチの企業制度説」 『経済経営論集』第22巻第2号 1980年9月
- 「オルトマンの企業目標論批判（Ⅰ）－シュミット企業経済学批判を中心として－」 『経済経営論集』第23巻第2号 1981年9月
- 「経営学史の方法」 『経済経営論集』第24巻第3号 1983年1月
- 「オルトマンの企業目標論批判（Ⅱ）－シュミット企業経済学批判を中心として－」 『経済経営論集』第25巻第2・3号 1983年10月
- 「シュミットの方法論上の特徴」 『経済経営論集』第28巻第4号 1987年3月
- 「シュミットの企業用具説」 『経済経営論集』第29巻第2号 1987年11月
- 「西ドイツにおける銀行と企業－寄託議決権の問題を中心として－」 『商學討究』（関西学院大学）第36巻第4号 1989年3月

- |   |                                       |          |
|---|---------------------------------------|----------|
| 「西ドイツ経済の展開と経営経済学－1966・67～1974・75年を中心として－」 | 『商学論究』第37巻第1・2・3・4号合併号                | 1989年10月 |
| 「ドイツ企業の特徴－企業体制と企業形態・所有形態－」                | 『商学論究』第38巻第3号                         | 1990年12月 |
| 「ドイツ監査役会の変遷と特質」                           | 『商学論究』第40巻第3号                         | 1993年1月  |
| 「ドイツの企業経営の特徴－企業形態と所有形態を中心として」             | 日本経営学会編『新しい企業・経営像と経営学』〔経営学論集第63集〕千倉書房 | 1993年9月  |
| 「シュミットの経営思考」                              | 『商学論究』第41巻第4号                         | 1994年3月  |
| 「シュミレーヴィッチの企業体制論（Ⅰ）」                      | 『商学論究』第43巻第2・3・4号合併号                  | 1996年1月  |
| 「シュミレーヴィッチの企業体制論（Ⅱ）」                      | 『商学論究』第44巻第3号                         | 1997年1月  |
| 「エコロジー志向的経営経済学の生成」                        | 『商学論究』第47巻第1号                         | 1999年7月  |
| 「企業政策の概念」                                 | 『同志社商学』（同志社大学）第51巻第3号                 | 2000年1月  |
| 「メッフエルトとキルヒゲオルクの環境マネジメント論」                | 『商学論究』第49巻第2号                         | 2002年1月  |
| 「ドイツの環境政策と環境マネジメントシステム」                   | 『商学論究』第50巻第1・2号合併号                    | 2002年12月 |
| 「ドイツのコーポレート・ガバナンス改革」                      | 『商学論究』第50巻第3号                         | 2003年2月  |
| 「ヨーロッパ会社（SE）創出の歴史」                        | 『商学論究』第51巻第2号                         | 2003年12月 |
| 「ヨーロッパ会社（SE）と経営参加」                        | 『商学論究』第51巻第3号                         | 2004年2月  |
| 「グローバリゼーションとドイツ型資本主義－社会的側面を中心として－」        | 『商学論究』第51巻第4号                         | 2004年3月  |
| 「ドイツにおける銀行と企業の人的結合」                       | 『商学論究』第52巻第1号                         | 2004年6月  |
| 「ドイツ型コーポレート・ガバナンスと利害集団」                   | 『商学論究』第52巻第2号                         | 2004年11月 |
| 「ドイツの経営者支配論」                              | 『商学論究』第53巻第1号                         | 2005年7月  |
| 「経営者の価値観と経営組織の研究－国際比較の視点から－」（共著）          | 『社会学部紀要』（関西学院大学）第99号                  | 2005年10月 |



「EU 統合の深化と新たな企業モデル－ヨーロッパ会社 (SE) を中心として－」	『比較経営研究』(日本比較経営学会) 第31号	2007年3月
「監査役会の権限と共同決定－ゲルムの実証分析を中心として－」	『商学論究』 第55巻第3号	2008年1月
「ドイツ経営学における伝統的な経営観」	『経営学論集』(神戸学院大学) 第6巻第2号	2010年3月
「ドイツの取締役会の特徴－ゲルムの実証分析を中心として－」	『商学論究』 第58巻第1号	2010年9月
「取締役会の権限と意思決定過程－ゲルムの実証分析を中心として－」	『商学論究』 第58巻第3号	2011年3月
「ドイツ・コーポレート・ガバナンス・コーデクス (DCGK)」	『商学論究』 第59巻第1号	2011年6月
「ドイツのコーポレート・ガバナンス・システムの特徴－ゲルムの実証分析の基礎－」	『商学論究』 第59巻第3号	2012年3月
「ドイツ型コーポレート・ガバナンスの基調」	『商学論究』 第60巻第1・2号合併号	2012年12月
「ドイツにおけるコーポレート・ガバナンス概念とガバナンス・システム」	『商学論纂』(中央大学) 第54巻第5号	2013年3月
「企業理念と環境保護－R.-B. シュミットの学説を中心として－」	『商学論究』 第61巻第4号	2014年3月

## — 欧文論文 —

Transfiguration of the EU Society and Societas Europaea (SE), a New Corporation Form in the EU Level, in: The Japan Association for Comparative Studies of Management (Edited), *BUSINESS AND SOCIETY* - New Perspective for Compative Studies of Management-, Bunrikaku Kyoto, 2007.

Corporate Governance in Japan, in: Jürgen Kessler (Hrsg.), *Herausforderung Globalisierung* - Festschrift für Prof. Dr. Ekkehard Sachse -, Berlin 2007.

## — 翻訳論文 —

E. ザクセ稿 「ドイツ民主共和国の社会主義経営における管理と計画への勤労者の参加」	日本経営学会編『現代の経営参加』〔経営学論集第46集〕千倉書房	1976年10月
エッケハルト・ザクセ稿 「ドイツ民主共和国における勤労者の賃金水準の向上と実質所得の向上」	『桃山学院大学総合研究所報』第7巻第2号 桃山学院大学	1982年3月

クラウス・ゼムリンガー稿「中小企業の日独比較－国際化と中小企業－」	大橋昭一、深山明、海道ノブチカ編著『日本とドイツの経営』第4章 税務経理協会	1999年8月
エドゥアルト・ガウグラー稿「日本とドイツの経営学」	日本経営学会編集『日本経営学会誌』第20号 千倉書房	2007年10月
Jürgen Keßler 稿「EUにおけるコーポレート・ガバナンスとドイツでの改革」	海道ノブチカ編著『EU拡大で変わる市場と企業』第6章 日本評論社	2008年3月
E. ガウグラー稿「日本とドイツの経営学の交流」(上記ガウグラー稿「日本とドイツの経営学」に原著者の加筆部分の訳を加えたもの)	『経営学論集』(神戸学院大学)第6巻第2号	2010年3月

## —辞典への執筆—

神戸大学経営学研究室編『経営学大辞典』 「監査役会」、「労働指向的個別経済学」	中央経済社	1988年7月
吉田和夫、大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』 「意思決定」、「ウルリッヒ」、「エコロジー」、 「環境」、「官房学」、「企業目標」、「ゲーテンベルク」、「シェーア」、「シュマーレンバッハ」、 「シュミット、フリッツ」、「商業学」、「ニッククリッシュュ」、「ハイネン」、「批判的合理主義」、 「フィッシャー」、「メレロヴィッチ」、「ライトナー」、「リーガー」、「論理実証主義」(他計45項目)	同文館出版	1994年3月
二神恭一編集『人材開発辞典』 「企業用具論」、「経営経済学」	キャリアスタッフ	1998年7月
経営学史学会編『経営学史事典』 「経営学方法論争(1)ドイツ」、「専門化(の原則)」、「組織の失敗」、「シュミーレヴィッツ」	文真堂	2002年6月
吉田和夫、大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(3訂版) 追加項目「経営倫理」、「環境マネジメント」	同文館出版	2003年9月
片岡信之、齊藤毅憲、佐々木恒男、高橋由明、渡辺峻編著『ベーシック経営学辞典』 「記述科学」、「規範科学」、「経営学(ドイツ)」、「経営経済学」、「経営参加」、「経営者」、「経営社会学」、「経営社会政策」、「経営政策」、「ゲメインシャフト/ゲゼルシャフト」、「工場委員会」、「マイスター制度」、「労使協議制」	中央経済社	2004年8月

- |  |         |         |
|--|---------|---------|
| 中條毅責任編集『人事労務管理用語辞典』<br>「マイスター制度」、「モンタン共同決定法」   | ミネルヴァ書房 | 2007年4月 |
| 吉田和夫、大橋昭一監修、深山明、海道ノブチカ、<br>廣瀬幹好編『最新・基本経営学用語辞典』<br>「ゲーテンベルク」他                           | 同文館出版   | 2010年3月 |
| 経営学史学会編『経営学史事典』[第2版]<br>「共同決定」、「経営学方法論争(1)ドイツ」、<br>「専門化(の原則)」、「組織の失敗」、「シュミール<br>レヴィッツ」 | 文真堂     | 2012年5月 |

## —書 評—

- |   |                                |          |
|---|--------------------------------|----------|
| 大橋昭一、小田章、G. シャンツ編著『日本的経営とドイツ的経営』(千倉書房)                                    | 『関西大学商学論集』<br>(関西大学) 第41巻第1号   | 1996年4月  |
| 万仲脩一著『企業体制論—シュタインマン学派の学説—』(白桃書房)  | 『大阪産業大学経営論集』(大阪産業大学)<br>第3巻第1号 | 2001年10月 |
| 山崎敏夫著『ヴァイマル期ドイツ合理化運動の展開』(森山書店)  | 『立命館経営学』(立命館大学) 第41巻第1号        | 2002年5月  |
| R. ツーゲヘア著風間信隆監訳『ライン型資本主義の将来』(文真堂)   | 『世界経済評論』 3月号                   | 2009年3月  |
| Schweitzer/Baumeister 編著『一般経営経済学—企業における経済活動の理論と政策—』(Erich Schmidt Verlag) | 『商学論究』 第63巻第1号                 | 2015年7月  |